

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271101885
法人名	医療法人 啓正会
事業所名	グループホーム モン・サン琴海
所在地	長崎県長崎市琴海戸根町7 1 3 番地 (電 話) 095-840-3070
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5 番 3 号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 3月19日

【情報提供票より】 (平成19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 人, 常勤換算	4.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋	造り
	3階建ての	1~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	3,000~3,100 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	451 円	

(4) 利用者の概要 (4月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 3名	女性 24名
要介護1	9 名	要介護2	2 名
要介護3	11 名	要介護4	5 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 82.4 歳	最低 64 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 啓正会 清水病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、正面を海岸沿いに面し、背後には森林があり、自然に恵まれた環境にある。ホーム内は明るく、温度や音も適度でゆったりと過ごす事が出来る。広いリビングから各居室が見渡す事が出来、利用者の出入りや状態の確認を行いやすい。法人内には、医療機関があるため、利用者の状態の変化には速やかに対応が出来、法人内の他のホームとも看護師を介して、情報交換や事例報告が出来ている。階層は違うが同じ建物の中に3ユニットある事で、お互いに連携が取れやすい部分も大きな強みである。「優しく、楽しく、元氣良く」の運営理念のもとに、職員は見守り及び支援を行っており、これとは別に介護の心掛けという目標を掲げ、達成に向けて取り組んでいる。また、グループホーム連絡協議会の中でのネットワークを活かし、研修や勉強会等を行っており、同業者との情報交換や交流が出来ている。職員は明るく元気で、利用者を人生の先輩として敬意をもって接し、安全面を念頭に置きながら生活の支援に努めている。食事は、利用者や職員の要望、意見を反映させた献立を法人内の栄養士に見てもらっているためバランスの良い食事となっており、食事の下準備や下拵えには積極的に利用者が参加しており、役割付けにも努めている。今後も、職員が皆で協力し合い、それを法人全体で支援し、よりよいホームとなっていく事が期待できる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の改善課題については、全職員で意見を出し合い、改善に向けて検討を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価を年に1回、自分たちのホームの介護サービスの現状を見直す良い機会と考えておりその結果を活用していこうという意識が見られる。今後は、自己評価に職員が直接的に取り組む事が望まれる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	現在のところ、運営推進会議については開催の準備の段階にある。今後は、日時、参加者、討議内容を検討しながら出来るだけ早い実現(4月開催の予定)を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の意見や苦情は、主に訪問した際の面会時や行事に参加してもらった際に話をする中で抽出している。玄関に意見箱の設置を行っているが、外部の窓口が設けられておらず、積極的とはあまり言い難い。今後は、外部の窓口を設けるとともに積極的な意見の抽出を行っていく事を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
重点項目④	積極的な地域への呼びかけをおこなっており、利用者が散歩している時には話かけてくれるなど、関係作りが出来ている。また、事業所の消防訓練時には、消防署や地域の消防団の参加があり、近隣の住民にも参加を呼びかけるなど、地域との連携がスムーズに取れるように積極的な働きかけに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「優しく・楽しく・元気良く」というグループホーム独自で作った運営理念を掲げている。理念をもとに自立支援を目的として各個人に合わせた介護支援を行っており、また、長崎市では無く琴海町であった設立時から地域の人とのネットワーク作りを行い、理念を地域密着型のサービスを意識しながら現場へ落とせるよう努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りやミーティング時に理念の確認を行うほか、ホームの各フロアの見やすいところに掲示されており、いつでも誰もが確認できるようになっている。同時に介護の心掛けという理念をさらに具体化した目標を掲げ、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩のときや外出の際には、近隣の方たちとは気軽に話をする関係が出来ており、自治会の清掃や行事へ参加をしている。また、夏祭りやみかん狩り、雲仙の足湯へ出かける際には近隣へも声かけして参加を促している。近くの小学校の学生との交流もあり、作った果物の差し入れや、訪問を受け入れている。さらには、近隣の消防団とも交流があり、消防訓練時には参加してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の評価の結果、課題として浮かび上がってきた点に関しては、改善案を職員全員で検討し、介護サービスの向上に努めている。また、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解しており一年に1回の自分たちを見直す良い機会として取り組んでいる。ただし、自己評価は職員全員では取り組まれていない。	○	以前の評価の結果に関しては、必要に応じて改善シート等を活用し、より良いサービスへ繋げていく事が望まれる。また、自己評価に関しては、うまく分担するなどし職員全員が参加出来る体制が出来事を期待したい。

グループホーム モン・サン琴海

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、報告内容の検討及び定期的な運営推進会議の開催に向けて準備を行っている段階である。	○	平成20年4月頃を予定している第1回目の開催に向けて準備をしているという事で、今後、運営要綱を定め、自治会長、家族、ケアマネジャー等の参加を得て、取り組む事が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	以前は、琴海町ケア会議が開催されていたが、現在もその際の繋がりを活用し情報交換を行っている。また、長崎市の担当者や保健所とも情報交換を行っており、依頼があれば協力できる体制を整えている。しかし、現在のところ、入居状況の問い合わせ等がほとんどである。	○	市町村合併後、少し市町村との関わりが消極的になっている部分があるので、関わり方を模索し、積極的な働きかけを行っていく事が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族が訪問された際には、その都度、面接を行っているほか、月1回の請求書送付の際に、利用者の近況報告書を同封しており、月に一度は電話連絡を行っている。日用品等の購入は立替払いを行い、後日、報告と共に精算を行っている。また、金銭の自己管理が出来る利用者は、小額ではあるが金銭を所持し、買い物をする際には支援を行っており、これらに関しても定期的に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時や行事参加時に会った際に、意見の抽出をしているほか、玄関脇に意見箱を設置しており、意見があれば、改善に向けて検討を行っている。しかし、苦情解決に向けての外部窓口や第三者委員の設置はない。	○	苦情や意見の窓口として、外部窓口を設ける事が望ましく、以前、行っていた家族アンケートを活用するなどし、積極的な家族等からの意見の抽出を行う事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別な理由が無い限り職員の異動はないが、退職に関しては利用者や家族にもよく理解してもらうように説明をしている。なかには寂しがる利用者もいるが、外出などで気分転換を図ってもらうようにしている。また、日頃から利用者のホームでの生活状況を細かに記録しており、新しく採用した職員とも情報を共有し利用者の生活に支障を起させないようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修年間スケジュールは無いが、新しく採用した際には、3ヶ月程度の研修期間を設け計画的に教育研修を行っている。また、法人内での勉強会を多く実施しており、グループホーム連絡協議会の外部研修もその都度職員へ受講呼びかけを行っている。外部研修に参加した職員は、ホームの職員向けに報告会を行っている。ただし、研修に参加していない職員にもうまく伝える為に、報告の仕方について再度検討しようとしているところである。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の中での繋がりを活用し、事例報告会や職員同士の交流を兼ねたレクリエーションへの参加、情報交換等を行っている。他のグループホームでの事例を各ユニットで検討し、利用者の為に活かすように努めている。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前には、相談員とケアマネージャーとで訪問するなどし、利用者や家族との聞き取りの中で生活歴や習慣などの情報収集を行っている。また、希望があれば入所前の見学に来て頂くなど、スムーズなホーム入所が出来るよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、見守る体制を維持しながらも利用者と一緒に過ごしなが信頼関係の構築に努めている。具体的には、食事の下ごしらえ、洗濯物たたみ、掃除などが挙げられる。接する時には、職員は人生の先輩として尊敬の意を持って接し、特に言葉遣いには配慮している。利用者との話の中では学ぶ事も多いとの事であった。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との会話や表情の様子から本人の希望や意向を把握するように努めている。利用者の意思表示を汲み取る事が困難な場合は、家族からの聞き取りも行っている。具体的には、食べたい料理やドライブ等が挙げられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の申し送りや、各ユニットでのミーティングの後、ユニットの代表者が集まり利用者の健康状態等の連絡、意見交換を行いながら介護計画の作成を行っている。また、計画書に新たにモニタリング欄を設けてチェックを行っている。介護計画書には家族等の署名、押印がなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は6ヶ月に1度の割合で、介護計画の見直しを行っているが、変化があれば必要に応じて利用者の家族と連絡を取り、意見を反映させながら見直しを行うようにしている。また、変化がある場合は早めに法人内の医院と連携して対応することを心掛け、必要があれば退院後の介護計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望があれば、通院や送迎、買い物、外出等の支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人に医療機関があるため、利用者の様態の変化に対する対応が早い。かかりつけ医に関しては、入所時に家族や利用者本人との話し合いを行い、ほとんどの利用者が法人の医療機関になっているが、緊急時には近隣の病院でも対応してもらえるよう、体制を整えている。歯科医院に関しては、近隣の歯科医院やかかりつけ医を利用してもらっており往診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に重度化した場合の対応に係る指針を記載しており、入所時に家族へ説明を行っている。今までにグループホーム内での看取りの経験はないが、他の施設等で受入が困難な利用者であっても看護師や法人内の医療機関との密なやり取りにより対応しており、今後も連携を活かし対応していく。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の守秘義務については、職員から誓約書を取っている。職員は利用者に尊敬の意を持って接し、言葉かけや記録等の中でもプライバシーの確保に努めている。しかし、各部屋に備え付けられているトイレに関しては、部屋の外から見える可能性がある。	○	職員にとっては違和感が無い事も来訪者や外部の者から見ると違和感を感じる部分もある。再確認の意味でも、日常では当たり前になっている事もいろいろな角度から検証を行い、よりよい介護サービスへ繋げていく事を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、起床などの大体の一日の流れは決まっているが、利用者の体調やペースに配慮し、強制することがないように見守り及び支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材はホーム全体で統一しているが、各ユニットで調理され、温かい物が食べられるように配慮している。また、出来る方には、食事の下準備や、配膳、片付けを手伝ってもらい、職員は見守る体制を維持しながらさりげなく支援を行っている。利用者の笑顔や笑い声が見聞き出来、食事を楽しんでいる様子が伺えた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴の曜日や時間帯は決まっているが、利用者の要望があれば他の日時でも対応出来る柔軟性がある。また、失禁等があった場合も、シャワー浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、アセスメントや日々の記録から、利用者の趣味や過去の経歴等を把握し、状態に合わせて日々のケアに活かしている。例えば、洗濯物たたみや手芸等が挙げられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向や体調に応じて、1日中グループホーム内に留まる事がないよう、付近の散歩や買い物、ドライブ、行事参加などの支援を行っている。各階への移動は中が広いエレベーターとなっており車椅子の利用者にも同じように対応できる。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビングから見渡せるため居室や各フロアの出入り口の施錠はしていない。玄関は、事故防止のため、オートロックにしており、これは、入所時に利用者と家族に説明し、同意を得ている。		

グループホーム モン・サン琴海

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会の防災訓練を実施している。訓練の際には地域の方への参加呼びかけも行っている。また、緊急時のマニュアルを備えてあり、フローチャートを見ながら職員の誰もが対応できる。しかし、夜間想定での訓練を行うところまでには至っていない。	○	防災訓練に関しては、夜間想定で実施する事も重要であるため、計画される事を期待する。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、ホームで利用者の要望を取り入れた案を提出し事務局で栄養士のチェックを受けている。その際、栄養バランスやカロリー、量を考慮した上で作成されている。また、利用者個人ごとに食事摂取量、水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の音や光の強さは適度である。玄関口やリビングは、季節感を感じさせる適度な装飾がなされており、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、洋室の部屋となっており、利用者が入所以前から使用していた物の持ち込みは自由である。また、利用者が製作した手芸等の作品、家族の写真が飾るなど居心地よく過ごせるような空間作りに努めている。		

※  は、重点項目。